

令和8年度 事業計画書

社会福祉法人竹山愛育会
認定こども園あいいくの丘

I. 法人

急速な少子高齢化や、多様な働き方などの就労環境の変化、核家族化の進行など、子どもや子育てをめぐる環境の変化は激しく、子育てを社会全体で支援していくことが必要となっています。

そのような中において、地域に必要とされ地域社会により一層貢献できる法人となるよう、法令遵守に徹し、各事業の経営の健全化に努めてまいります。

II. こども園

1. こども園の運営

(1)定員 119名 (1号認定児 9名、2号・3号認定児110名)

(2)園児数 101名 (令和8年4月1日予定)

	園児数	保育標準時間	保育短時間	教育時間	備考
0歳児 (そら組)	1	1	0	—	丹波市 1 福知山市 0
1歳児 (ほし組)	5	4	1	—	丹波市 3 福知山市 2
2歳児 (にじ組)	26	17	9	—	丹波市 22 福知山市 4
3歳児 (つき組)	11	6	4	1	丹波市 8 福知山市 3
4歳児 (ひかり組)	27	15	8	4	丹波市 23 福知山市 4
5歳児 (たいよう組)	31	19	9	3	丹波市 23 福知山市 8

(3)職員数

・令和8年4月1日 (予定) 職員数 50名

【 事務長、園長、副園長 1名、主幹保育教諭 2名、看護師 1名、管理栄養士 2名、保育教諭 20名 (内副主幹 2名)、保育士 6名、保育補助 3名、栄養士 1名、調理師 2名、バス運転手 2名、出納員 1名、事務補助 1名、アフタースクール支援員 6名 】

・就業形態

常勤職員 17名、常勤的非常勤職員 11名、非常勤職員 22名

2. 教育・保育

- ・年度当初、改めて全職員で園の教育・保育方針を確認、共通理解し、園がめざす保育に対する意識を共有し、全職員一体となって日々の保育を実践する。
- ・年齢別保育を基本とし、自由時間や時季によっては異年齢児での保育を行う。
- ・クニニュータナ教室・ムツレ教室等により、市島地域の豊かな自然環境を活かした自然環境教育の充実を図る。
- ・園の各種行事や食育活動、地域との交流等様々な体験を通して、園児の心身の健やかな成長・発達を促す。
- ・育ちの連続性を大切にし、資質・能力を一体的に育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら就学前教育を行うとともに、小学校教育への円滑な接続が図れるよう小学校との連携 (幼小連携) を推進する。
- ・園児の健康・安全に常に心を配り、園児が安全・安心に過ごすことができる保育環境を整える。

(1)教育・保育方針

「五感で四季の移り変わりを感じ、自然と共にたくましく育つ子」

「理念」

自然豊かな環境の中、心豊かな人格形成・心身の発達を培い、自尊心の育ちを大切にする教育・保育を行う。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

ア、健康な心と体 イ、自立心 ウ、協同性 エ、道徳性・規範意識の芽生え オ、社会生活との関わり
カ、思考力の芽生え キ、自然との関わり・生命尊重 ク、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ケ、言葉による伝え合い コ、豊かな感性と表現

(2)資質・能力を一体的に育む（幼児期の遊び、生活を通して）・・・資質・能力の3つの柱

- ・「**知識及び技能の基礎**」豊かな体験を通じて感じたり、気付いたり、分かたりできるようになったりする。
- ・「**思考力・判断力・表現力等の基礎**」気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
- ・「**学びに向かう力、人間性等**」心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

3. 保育時間

管理運営規則の定めによって行う。

4. 安定した運営

- ・管理職、主幹、主任、及び副主任（リーダー）等の管理・監督職について、専門分野の資質向上を図るとともに、長期的に安定した運営を可能としていくため、園経営に係る組織体制の確立や職員意識の高揚を図る。
- ・保育における人的環境安定化のため、効率的かつ効果的な職員配置となるよう改善するとともに、人材確保に努める。
- ・職員の職場定着、働きやすい職場づくりをめざし、園内の業務改善や勤務時間の適正化等働き方改革を積極的に推進するとともに、職員処遇の適正化を図る。

5. 職員研修

- ・本園は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、園児の「主体性」を育む教育・保育の実践に全職員で取り組み、保育者に求められる援助の在り方について研修を積み重ねてきた。引き続き、積極的に外部講師を招聘して保育内容の見直しを行い、保育者としての資質・能力の向上を図る。また、保育士等キャリアアップ研修や教育委員会主催の公開保育研修会等に積極的に参加し、専門性の向上を図る。
- ・各年齢に適した「ねらい」を十分に把握したうえで指導計画を作成できるように、全体的な計画及び年齢別の保育教育課程の見直しと調整を行う。
- ・特別支援教育について、積極的に研修会等に参加し知識理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする園児に係る園内研修を充実させ、園児理解を深め、園児一人一人に応じた支援の充実を図る。
- ・クニュータナ教室・ムッレ教室等自然環境教育の充実を図るため、日本野外生活推進協会が主催するリーダー養成講座等に積極的に参加する。
- ・不適切保育の未然防止に関しては、園内研修でねらいとする「求められる保育者としての資質・能力の向上」と連動させて取り組むとともに、各保育者自身が常に意識し、チェックリスト等により日頃から自身の保育を見つめ振り返ったり、保育者同士で話し合ったりできる研修の機会と場づくりを行う。
- ・コミュニケーション研修やハラスメント研修等を実施し、全職員が活躍できる職場環境を醸成していく。

6. 各種関係機関や家庭との連携

- ・年長児については年度当初に保護者へ就学先を確認した上で、各小学校と連絡を密に取り連携を図り、全園児及び保護者が安心して就学を迎えられるようにする。
- ・就学に向けたアプローチカリキュラムを作成するとともに、小学校と連携しながら、架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）のカリキュラムを作成し、幼小の円滑な接続を図る。

- ・こども育成課（教育委員会）、こども福祉課、健康課、社会福祉課、障がい福祉課等関係機関と密接に連携を図る。
- ・地域の関係団体との連携を大切にし、地域とともに子育て支援ができる環境づくりを進める。
- ・園の教育方針、目標を保護者に伝えたり、アンケート等で保護者ニーズを把握したりして、保護者の声を大切に信頼関係を築き、保護者から信頼される園づくりを推進する。
- ・アレルギー対象児については、家庭や関係機関と連携を取り、細心の注意を払い安全を確保する。
- ・個別に支援が必要な家庭には、関係機関等と連携を取り、家庭に寄り添い支援できるように努める。
- ・保護者への情報発信について、園だより等各種たよりをはじめ、「イロドリリンク」によるドキュメンテーションシステムの配信により日々の保育を可視化して伝えるとともに、緊急時等には「イロドリリンク」により迅速に情報発信を行う。

7. 整備計画

- ・各所の点検を定期的に行い、不備なところを確認した際には早急に修繕を行う。
- ・様々な場面を想定し、常に園児の安全を第一に考え危機管理に努め、安全・安心な環境を整備する。

Ⅲ. アフタースクール

子どもが安心して過ごせる環境を整え、安全面に配慮しながら子どもの発達段階に応じた主体的な遊びの生活を保障し、子どもの健全な育成を図る。

- ・コーディネーターを中心に職員間の連携を深め、共通認識をもって児童や保護者の対応を心がける。
- ・個々の児童の姿や集団での姿を常に把握し、児童の心に寄り添った対応を心がける。
- ・保護者との連携を密にし、また児童の尊厳や個人情報についても慎重に対応する。
- ・支援を要する児童に対しては各児童にあった支援方法を検討し、安定した生活を送れるように努める。

【竹山アフタースクール】

(令和8年4月1日予定)

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
通常利用	9	12	9	1	1	0	32
長期利用	0	1	1	2	1	0	5
計	9	13	10	3	2	0	37